

桜井城跡発掘調査現地説明会資料

調査期間 2015 年 11 月 11 日～継続中（全区域）

調査面積 913 m²（全区域）

調査目的

調査地は桜井城（市指定遺跡「桜井城趾」）の南西に隣接し、遺跡に登録されている場所です。今回、この地区で土地区画整理事業が実施されているため、工事によって地下の遺跡に影響が及ぶ箇所について発掘調査を行うことになりました。調査地は南と東、北に沼地や湿地があったと言われており、調査で確認した地形からも西から延びる台地の端に位置していたとみられます。

調査結果

昨年の南区の調査では戦国時代の土器が出土する井戸を多数検出しました。北区でも溝、多数の土坑や柱穴、井戸を検出しました。主な遺構は次の通りです。

- ・溝は数条検出していますが、主なものは北区の東と中央で検出した南北に延びるもの 2 条（溝 1、2）と南区で検出した東西溝（溝 3）です。溝 1 は南端が途中で切れますが、北は調査区外に向かってほぼまっすぐに下っていきます。溝 2 は途中で緩やかにカーブしながら北に向かって下っていきます。溝 3 は調査区の南端を横切っています。中世の井戸に切られていることから、それ以前に掘られたものです。
- ・大型の井戸は 7 基（南区 4 基、北区 3 基）検出しました。これらの井戸からは戦国時代の土器が多く出土しており、掘られた時代もその頃とみられます。そのほかの井戸 4 基は近世以降、現代までのものがあります。井戸枠をもつものが 1 基ありました。全調査区で合計 11 基もの井戸が掘られていたことになります。
- ・土坑は大小さまざまなものを検出しています。このうちこの遺跡で特徴的なのは土坑が連続して 3～4 基、直線上に掘られているものです。このような遺構を少なくとも 6 か所検出しています。これだけ何組も検出した例もなく、時代や用途はよくわかっていません。

まとめ

今回の調査では、戦国時代から近世、近代を中心に多数の遺構や遺物を検出しました。桜井城と同じ時代の遺物がまとまって出土しているのは大型の井戸です。これだけの井戸が集まっている様子から、居住地域よりむしろ生産活動の場だったようです。

出土遺物は少ないですが、さらに時代をさかのぼった古代の須恵器や土師器も出土しています。台地の端の安定した場所は、古くから人々の活動の場となっていたことが分かりました。



遺跡全景（西から） 後方の林が桜井城址（城山公園）



連続する土坑（穴）

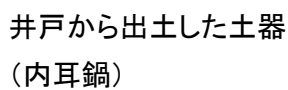
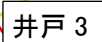
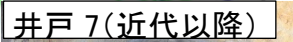
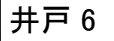


遺跡中央で検出した溝 1（北から）



桜井城縄張り復元図

遺構検出状況



黄緑色の線は現代になってから掘られたところ
(攪乱)です。

南区

東西に延びる溝 3

南北に延びる溝 1。
古代の甕の破片がまとまって出土しま

南北に延びる溝 2。

並んで掘られていた土坑

井戸 5

大型の井戸

北区

並んで掘られていた土坑

大型の井戸。埋土中には炭や貝殻、大きな土器の破片が混じっていました。